

文 と え

高子 見 細



五 重 塔

仁和寺に五重塔がある。かつてここは御室御所と呼ばれた。静けさを求めて知らぬ間にここに足が向く。ここでは、騒然とした現実社会は自分から消え去る。

うっそうと茂る木々の間から、五重塔は優雅な、しかも、堂々とした姿を見せている。近づくと従ってググッと眼前に迫ってくる。美しい塔である。日本の素朴さ、静寂さを漂わせている塔である。遠い昔にこんなにも美しく、こんなにも見る者の心をひきつける塔が造られたことは驚異に値する。優雅な美であり、しかも簡素の美であり、釣合いの美であり、日本の美である。今も昔も、人は美を追求せずにはいられないのである。

この塔を造るのに多くの人々の犠牲が払われたであろう。彼らの苦心の創造物であるこの五重塔。高く見上げると、周囲の自然と調和して、見る者の心を強く捕えて離さない。

(女子大学こぶし画会員・家政科三年生)